



復刊第100号  
題字 吉岡弥生

### 日本女医学会誌

### 復刊百号を記念して

会長 三神 美和

熱帯夜が四十日以上も続いたきびしい夏でしたが、会員の皆様にはお元気にお過ごしでしょうか。医者の不養生といえますので、何卒この上でもご自愛下さいませよう、お願いします。

さて、先日広報部より、日本女医学会誌が復刊百号となるとのお知らせをうけ、驚いた次第です。一年四回として二十五年経過したことになり、その線から辿ってみれば、昭和三十三年に第一号が発刊されたことになりました。よくもここまで絶ゆることなく、つづけて下さったと思ひ、この編集に当たられた代々の広報部の方に心からの感謝を申し上げる次第です。本来ならば、第一号から目を通して、感想を述べ、感慨にふけるべきでしょうが、私の手許に不覚な

がら揃っておりませんので、そうした感想は述べられませんが、ただこうした機関誌は、その会の歴史であることを思えば、その時々々の出来事が記録されるはずであります。日本女医学会が再発足してから二十八年になりますので、その間に起こった出来事はすべて網羅されているはずであります。思えばこの間、いろいろなことがありました。国際女医学会への復帰、これは大きなことでした。龍先生がロンドンに行かれたことも記憶に残っております。まだ自由に国外に行く機会がなかった時、外国で行なわれた国際女医学会会議へ、しだいに多数の会員が出席されるようになったのも、昭和三十年代、四十年代でした。また大阪の万博の現場六カ所に医療奉仕し、全国的に会員

が参加されたのは昭和四十五年でした。これなどは当時の会誌を賑わしたことを存じます。さらに昭和五十一年（一九七六年）の国際女医学会東京会議は会として大きな出来事でした。またその前に行なわれた「女医の実態調査」も全国的なものでした。こうした大きな出来事は、そのつど、洩らさず掲載されている本誌は、私どもにとって貴重なものであると思います。役員が変わり、広報部員が変わっても、その時々々の日本女医学会の活躍は、本誌を見れば一目瞭然です。頼もしいことと存じます。再発刊百号を記念して、さらに充実したものにして行きたいと存じます。

この記念号に便乗してこの秋開催される二つの行事について述べたいと思います。一つはすでに予告されました日本女医学会の年中行事である学術研修会のことです。十月、岡崎市で世界的な学者である江橋節郎先生のご講演があります。またその際滅多に見ることのできない岡崎国立共同研究機構の生理学研究所を見学することができます。世界的レベルの先生の講演をきくことによつて、私どもの知識を広め、深めるよい機会でもありますので、奮つてご参加をお願いします。

もう一つは日本の公許女医第百周年生百年記念行事であります。早くから新聞紙上に報道され、また近く講演にもなるという第一号女医荻野吟子女史を称え、百年後の女医の実態を見究めんと企図して、十一月十日

### 目次

日本女医学会誌復刊百号を記念して	三神 美和 (1)
復刊百号に寄せて	荒川 あや (2)
国際女医学会第十九回国際会議報告	山崎 倫子 (2)
国際連絡書記報告	山崎 倫子 (2)
発表論文要旨	
変貌する日本の社会における男と女	堀口 文 (5)
若い会員達の公開討論会に出席して	堀口 文 (6)
カナディアン・ロッキーマウンテンの旅	井上 柳子 (6)
ナイアガラ瀑布とトロント市	青木 ちよ (7)
アラスカ・コースを旅して	原 弥栄子 (8)
国際女医学会各会議における論文発表者一覧	原 弥栄子 (9)
荻野吟子女史公許女医誕生百周年を迎えるにあたって	白橋 美笑 (7)
荻野吟子を語る	久保田くら (10)
輝ける埋没(吉岡弥生先生著「わが自叙伝」より)	久保田くら (12)
日本女医学会東京都支部連合会結成なる	今野 信子 (12)
復刊百号を迎えて	八木 貞子 (13)
書評・三神美和著「悔いありてこそ」	柳瀬 路子 (15)
会員の消息	柳瀬 路子 (9)
理事会議事録	柳瀬 路子 (14)
常任理事会議事録	柳瀬 路子 (14)
会員動静	柳瀬 路子 (16)
公許女医誕生百年記念行事予告	柳瀬 路子 (16)
編集後記	柳瀬 路子 (16)

(土)にその記念行事を行なうことになりました。封建的社会で、男性優位、女性蔑視の時代に苦難の道をきり開いて、時の衛生局長を動かし、公けに女医となる道を開拓した荻野吟子女史の勇氣、根氣と、熱意はいつの世までも伝えらるべきことであると思います。吉岡弥生先生も荻野吟子女史を尊敬しておられました。女史こそ、近世女医の生みの親と申せましょう。私どもはこの先達を称え、この名を永く伝える義務があると思ひます。世は移り、人は変わつても、生みの親を忘れてはならないのです。

今や日本の女医は一万七千人を数えるに至りました。若い人たちにこのことをお知らせすることが大切だと思えます。女史により拓かれた道は、今や立派に成長し、日本の女医は、地域医療に、学術研究に、あらゆる面において、男性に伍して活躍しております。当日は全国女医の活躍ぶりを報告していただき、日本女医百年の発展ぶりを、世に披瀝したいと存じます。また当日女史の名を残すために設けた荻野吟子賞の第一回受賞も行ないたいと存じます。

各地の皆様のご参加をお待ちしております。公許女医誕生百年が新聞にとり上げられ、女医への関心が高まり、日本女医学会の名がクローズアップされたことは慶ばしいことと

存じます。私どもはこの機会を促えて、大いにその道に励むとともに、

女医の能力を社会に知らしむることに努力すべきと思えます。それにはやはり日常の診療を通じ、地道に患者中心の医療にとり組み、女医ならではと感謝される医療に心掛けるこ

### 復刊百号に寄せて

とが肝要と存じます。国際性を身につけると同時に、社会性のある医療に邁進することこそ、これからの私ども女医の進むべき道と考えます。お互いに自愛自重して大いに頑張りましょう。

中央支部 荒川 あや

私は大正十年卒、明治三十二年生まれで、老化しながらも人様にお世話をかけないように果てたいと願つ

### 国際女医学会第十九回国際会議報告

#### 国際連絡書記報告

国際連絡書記 山崎 倫子

七月二十九日から八月四日まで、カナダ・バンクーバーで開催されたM.W.I.A.国際会議に日本から会員および同行者八十七名が参加しました。会議の行なわれたバンクーバーホテルは街の中心にある古い、もつとも格式の高いホテルで建物全体がどっしりと落ちついており、宿泊室、ロビー、会議室も広々として大変気持ち

のよい一週間の滞在でした。気候も快適で、日頃の雑踏や騒音の中の忙しい生活から逃れて、命の洗濯とまではゆかないにしろ、ほっとした息抜きであったと思えます。

この度の参加国は三十カ国。他に、個人会員として、イラン、アンゴラ、トルコ、レソト、ペルーから十人は

ております。その第一に、主人をみおくつてからという願いをもっていました。わすれ九日間の病床に臥し主人は他界しました。これでどうやら妻の務めを果たしたものの、半身不随のようになだ泣くばかりの日々でしたが「秋深し石も泣くてうさびしさに君が夜毎の寝ざめいかに」と「亡き君の深き守りのありてこそ世の荒波を乗りこえ行かまし」等々、暖い友情に守られて、今日元気にすごしております。

とは何事だ」という怒号のどぶ中を伯爵大隈重信氏ほかを迎えて、竹内茂代たつた一人の卒業式がまことに盛大に挙行されたことは永く語りつがれています。女性教育史の大恩人である先生は常々、仕事は背越せず、即決即答。医学のみならず、社会および国外に視界を開くことと教訓され、自らも無償で近隣国の留学生を招待されたり、また行政教育面においても常に女性代表としての相談をすすんでうけておられました。晩年、先生を尊敬、お慕い申し上げる全国の弟子たちの奉金によって、ご夫妻並んでの銅像が建立されたことは、まことに感激の至りであります。

どが出席、会議参加者は約五百八十人、同伴者を含めると六百人はゆうに越えていたと思えます。国別にみると、アメリカ百三十人が一番多く、カナダ八十人、ついで日本の七十七人でした。今回韓国からは六十四人という大代表団が参加し、一同目を見張りました。次々期開催地として立候補している関係からのデモンストレーションのようでした。開会式では、来賓のブリテイジュー・コロンビア大学医学部長の挨拶がありました。

要点——骨、筋肉、体力など生理的な男女差ははっきりしているが、近年社会的、行動的男女差は縮ま

合も、男女間の理解の上に成立するものである。今後われわれの仲間としての女医に期待するところ大である。——最後にひとつ、個人的な例で恐縮だが次のエピソードを紹介した。五歳になる男の子が母親との会話で、「お母さん、戦争つてなに？」「戦争つていうのは人と人が殺しあうことよ!!」「お母さん、核爆弾つてなに？」「それはね、第二次世界戦争でアメリカが広島に落した爆弾でね、一度にたくさんの人を殺し街を破壊してしまった爆弾なのよ!!」「お母さん、第三次世界戦争はあるの？」「いいえ、もう戦争はないわよ」「じゃ核爆弾もなくなる？」「ええ、

核爆弾も絶対になくなるわ。ある日、父親が来客との間で、戦争のおそれや核爆弾の話をしていると、子供が口をはさんで言った。お父さん、第三次世界戦争はおこらないよ。なぜだい。だってお母さんがそう言ったもの。核爆弾もなくなるよ!!。なぜ?。だってお母さんがそう言ったんだ!!。女性はずっと教育ができるんです、と。

講演は全部で七十三、基調講演は三題。  
 (1) 男女の関係の変化、(2) 患者および医療社会化にみる婦人の問題、(3) 性にかかわる諸問題がありました。順不同に概略を記してみます。



総会にいらぶ役員

この数百年をふり返って見ると女性の生活、行動、地位などすべてが非常に変わってきた。それは、(1) 移住、(2) 家事からの解放、(3) 家族計画、(4) 平均余命の延長、(5) 社会変革、(6) 働く女性の増加、(7) 女性の能力の多様性による社会参加、(8) 自由の認識などによるものと考えられる。

女性の職業参加は経済的理由によるものが多く、現在五〇%の女性が何らかの職業に従事している。しかし女性の賃金は男性一ドルに対し六十五セント、すなわち百対六十五の割合で格差は大きく、なおその差は拡がりつつある。女性が働くためには子育てのプログラムが確立されなければならぬ。保育所、時差勤務など労働組合も協力努力しなければならぬ。

女性が自立し、社会的、指導的役割を果たすためには、(1) Administration 経営管理、(2) Imagination 想像力、(3) Decision Making 決断力、(4) Courage 勇気が必要である。

精神神経障害の発生は男性より女性に多く、統計によるとトランキライザーの服用は男性に比し二倍以上である。また、職業をもたない三十五歳以上の女性ではアルコール中毒が非常に多い。一般ではまだ男性支配で家庭内暴力(夫が妻に対する)、性的暴力が多く、女性は家庭に閉じこめられ、生産するものは子供だけという状態も多く見られる。したがって飲酒にふけり、トランキライザーに依存する生活が社会的変化の中

でコントロールできず精神神経障害を惹き起こしている。現在法の下に男女は平等の権利を持つが、子供の時から平等の教育も訓練も受けていないので真の平等を得るに至っていない。平等の権利のうらには責任が伴うことも忘れてはならない。

百五十年をさかのぼって女医の歴史をみると、各国非常に共通していることに気づく。医師を志望した女性の家庭は、おおむね父親が大学卒、母親は中卒以上であり、父親は十年以上専門職につき安定しているというデータがある。また男性に比べ女性の方がすでに低年齢で医師になろうと決断する傾向が強い。

しかし、医師になつてから、結婚、育児などで仕事を中断すると再び専門職に戻ることは難しい。仕事と家事労働を平行してゆくために、当然働く時間が男性より短くなるし、したがって収入も男性より少ない。いずも同じ、仕事と家庭の両立のむずかしさを述べた。

発表論文七十六のうち十五、約五分の一はアフリカの途上国——ナイジェリア、ケニア、シエラリオン、エジプトからの提出であった。記憶に残ったいくつかをご紹介しますと、女性の性器に対して行なわれる割礼の習慣がいかに女性に苦痛を与えているかについて(ナイジェリア、シエラリオン)、若年者とくに小学生、女性における喫煙者の増加、タバコの有害性について緊急に教育活動をすべきこと、家庭内暴力、とくに夫

の妻に対する暴力、性的暴力についておよびその分析について等がいろいろもナイジェリアから報告された。男性記号♂、女性記号♀をみても分るように男性は常に槍を持って侵略的であり、女性は本来平和を愛するものであると記号♂♀をスライドに写して会場の微笑を誘ったこともありました。

西アフリカ特にシエラリオンの乳児の食餌について、の報告によると生後六カ月までの乳児には絶対に母乳が重要であることを述べ、輸入ミルクはかえって胃腸障害をおこし発育に害があるとし、また六カ月以上の乳幼児には原地産穀類の無精白を十分に炊いて金あみで何回もこしたかゆを推奨、輸入米は不可であるとされた。結論として、人間の子供には人間の乳を、牛の子供には牛乳を、とせめくつた。会場では時間が与えられなかつたので後で個人的に質問した会話を紹介する。アフリカは全体的にみて著しい食糧不足、飢餓に瀕している人口が多いとき、わが国も、また私たちもアフリカへの食糧援助に努力しているが送ったミルクや米が乳幼児の発育に役に立っていないという報告にはいささか驚きであった。送られるミルクや米は母乳をだすために母親の口に入るのか、と聞くと、答えは、ノー。

ミルクは全部父親が飲む、彼が一家の主だから!!。われわれに必要な援助はわれわれが自家米をいかに多く生産できるかの技術援助であると

いう。こう答えた彼女は医師、同伴の娘さんは英国へ留学中の医大生、どこの奨学金を貰われたのですかと聞くと、否、自費留学である、父親は国の役人で事業もしているし、私の医師としての収入もあるのだから、まあ送金してやってゆけると。アフリカといっても広いし、確かに彼女のいう通り国によって食糧事情も違うのだろう。メディアを通して知る事情と実態とは少なからぬ差があることをまたまた思い知らされた。それにしても多くの援助物資が本当に必要としている国へ、人へ届き本當に役立つことを心から祈らずにはいられなかつた。彼女にいわれるまでもなく今、もっとも食糧不足と飢餓に瀕している国はエチオピアであることは承知しているが。

カナダでは一九六〇年から八十一年の間に医大を卒業する女医が八%から四〇%にまで増加してきた。インターンの三〇%は女医である。医科のカリキュラムも卒業訓練の内容およびレベルも性による差はまったくないが、卒業専門を選択する際に性差がはっきりと現われる。家庭医志望四〇%、麻酔科、精神科、小児科検査室研究等がついで多く、外科系はわずか一三%である。また開業より勤務医、田舎より都会を希望する傾向が強い。同等の資格を持つていても男医に比し女医の働く時間は少なく、賃金も少ない。学問的進歩も昇進も男性ほど早くない。

女医が生まれるまでの歴史はどの国もほぼ共通しており、多くの困難と苦勞と差別を克服してきたものである。

一般的に男医は看護婦を配偶者に選ぶことが多いが、女医の場合は専門職、特に医師を選んでいる。医師の妻では情緒不安に落ち入ったり、夫にかまってもらえないため(医師の職業上)悲嘆に落ちこんだり、精神症状をおこす例が多い。事実、医師の妻の自殺率は一般婦人のそれより高いし、医師の自殺率よりも三倍も高い。

ストレスは男性では主として身体的症状を惹きおこし易いが、女性では情緒的、精神的症状が発症し易い。ただし管理職では心臓病が多い。ストレスの多い母親の子供は病気に罹り易い。停年は女性に余り変化をもたらさないが、男性には著しい影響を及ぼす。家庭内環境や友人たちとのネットワークが老化や発病に大きく影響する。

大都市在住の老人男女における医学的、心理的、社会的見地からの差をみると——老齡男女の状態はそれぞれ受けた教育、生活背景および職業体験等によって大きく異なることは経験的に説明できることである。現在、老齡婦人に対する経済援助は男性に対するそれよりはるかに少ない。

ベルリンでは全世帯の五二%が独居世帯で、その八〇%は女の独居世帯である。妻の介護を受けている男

性老人に比べ、介護を受ける相手のいない老齡婦人が多いことはいまでもない。老齡婦人のために老人ホームも、老人病院のベッドもより多くを必要とする。老齡者における疫学的性差としてみられることは、女性により多く転落事故、骨折がみられ、男性には自殺が多いことである。これらは医学的にまた一部環境的根拠から説明できる。医師の平均余命は一般より短い。女性の方が長生きするが、発病年齢は早く、病気をもって長生きしているのが実態である。

老人におけるDepressionはありふれた症状で男女とも加齢とともに氣力喪失が増えてくる。男性においては人間関係が少なくなつてゆくことより、肉体的な能力を失うことや肉体的生産活動の低下によってDepressionをひきおこす。反面女性では情緒的なふれあい、感情的要素(愛情を与えるまたは受け入れるといった対象または事柄)が失われてゆくことに強く影響されてDepressionになる。症状としては男女ともに孤独感、不安感および自分の存在が必要ない無用感をもつ。治療法はさまざまであるが、力強く行なうことによつて効果が期待される。男性では過去の生活習慣を取り戻すような、たとえば、パートタイムの仕事、パブに一杯飲みに行く、ポーカーが遊べる等、また女性の場合、過去の感情を確かめる、愛情を与えるまたは受ける等の新しい感情的結びつきを作り出す等、は治療効果が大きい。小さな

子供たちの精神的養祖父母になること、老人仲間を持ち、新しい友人を作る等、あたたかい感情の交流が必要である。

またスペース環境内の男女差について報告があった。アメリカではまだ一人の女性宇宙飛行士の体験のみで今後の研究が待たれる訳であるが、宇宙飛行士のロケット打ち上げ前と地上帰還後の身体検査の結果によると、まず真空状態の中に長くいるため男女ともに共通の症状が現われる。すなわち、めまい、むかつき、強い疲労感、食欲減退である。心臓は一〇%くらい小さくなる。地上帰還後

長時間にわたつて一〇〇%酸素を吸入しなければならぬ。女性に特有としてみられるのは排尿ストレスと生理不順等で、なぜか男性では薬丸の外傷がみられる。スペース・ロケットの狭い空間に女性専用の場所、トイレの据え方などむずかしい設計上の問題もあつて女性宇宙飛行士の誕生が遅れているということであつた。

女性刑務所内における育児についてオーストラリアから報告があつた。乳幼児は母親と一緒にいる権利がある。母親の入獄によつて乳幼児を母親から引き離すことは、子供に対して処罰を与えると同じ問題を提起するものである。オーストラリアのビクトリア市では一九七七年以来生後から満二歳までの乳幼児十七人を母親と一緒に刑務所内に住まわせている。

子供に対する母親の責任を認識させるためにもまた母と子の絆を深めるためにも重要なことである。母子の住む刑務所の個室、訪問風景、鉄格子をへだてて他の囚人とふれあう幼児の姿等、数枚のスライドが映された。

性的問題に関する講演および報告があり性器異常、男になりたい、女になりたい願望、性転換、性的暴力、性的不満、女性の性器手術、不感症、性行為不能、ホモ、性行動、性技(戯)等にふれたがむずかしくてよ

く解らなかつた。アメリカで二千人の精神科医を対象に、相談の内容について質問をしたところわずか五%しか返答が得られなかつたが、その五%の精神科医が相談の九〇%は性に関するものであつたと答えた。

デンマークから、医師の失業問題等について報告があつた。現在女医は全体の二一%、一%がGP(一般医)、女性の教授はゼロ、女医の失業率は六・四%、男医では二・六%のこと。また臨床、基礎研究、教育分野等における女医の活用の不均衡、性差による一方的配置などなお存在する。女性の特質がもつと活用されなければならない。

人工妊娠中絶は好ましいことではないが、中絶をする、しないを決めるのは女性の権利である。人工妊娠中絶を推奨し、施策として実施している国に対しては経済援助を行なわないというレーガンの方針は許せないという強いアピールがあつたこともつけ加えておく。

他に男女医の社会参加の現状、男女の生理学的、解剖学的、行動的差異についていろいろ報告があつたが、全体的にみて低調であつたといわざるを得ない。

会議の運営もまた拙劣であつた。決議案等は決議採択直前に配布され審議すること一切なく、字句の訂正も一切認めないという前提で票決となつた。とりあえず重要な点のみをお知らせすると、

一、国際会費が年間一人当たり六ス

一、国際会費が年間一人当たり六ス

イス・フランすなわち一フランの値上りとなった。

二、日本からの五十年会員は百十九名でもっとも多く、会場にかん声があがった。

三、新会長はカナダの Dr. Bevelly Tamboline、次期会長には Dr. Fernanda de Benedetti-Venturini (イタリー) が選出された。

その他の役員は、南ヨーロッパ地区にフランス、中央アジア地区にタイから選出され、他は無投票で再選となった。

四、MWIA第二十回国際会議は一九八七年四月二十六日から五月二日まで、イタリーのソレントで開催と決定した。

テーマは「思春期——医学的、心理的、社会的見地から——です。

○発表論文要旨

変貌する日本の社会における男と女

独協医科大学産婦人科助教授

堀口 文

第二次世界大戦後の日本は民主化および男女同権による経済発展のため男女の生物学のおよび行動的变化に著しいものがありました。寿命は男性の七十四歳に比し女性は七十九歳でその三大死因は男女ともに癌、脳血管障害および心疾患でその順位に性差はありません。図に示した女性のライフサイクルにより、昭和十

五、次々期国際会議の開催地は投票の結果、韓国のソウル市と決定した。

六、西太平洋地域の再編成案については、当事国であるオーストラリア、ニュージーランドから反対があり、従来通りで変更しないことに決まった。

七、イラン、ペルー、レソト、コロンビア、トルコ等から個人会員として加盟の申請があつた十名はいずれも承認された。

八、佐野アヤ子先生と Dr. Joan Redshaw (オーストラリア) 前国際女医学会のお二人が名誉会員に推されました。おめでとうございます。

少なども原因の一つにあげられると思います。それに対し男性は仕事が過重で仕事中毒、ストレスや事故をうけやすい傾向があります。

思春期には男女ともに非行として暴力、家出、殺人、喫煙、覚醒剤、シンナー等の薬物中毒やアルコール依存症、女子においては若年妊娠や望まない妊娠の捨て子などや自閉症、登校拒否および学生無力症などの心身症の状態まで諸問題が増えております。

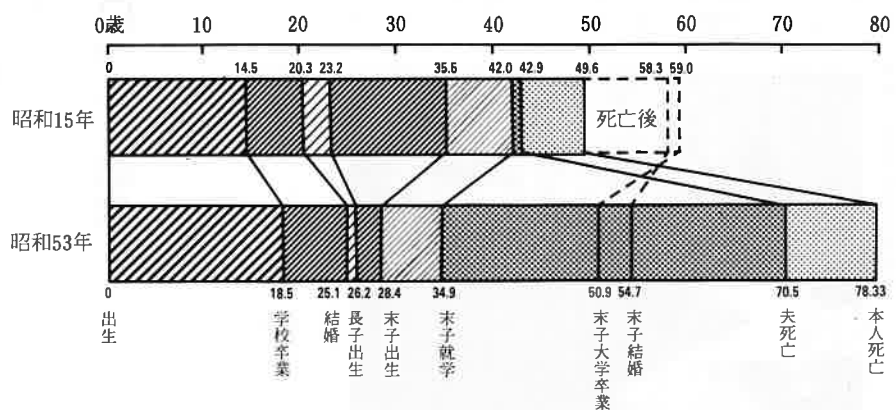
生殖年齢におきましては、母乳栄養をはじめ育児の意欲の欠如、子供の虐待、望まない妊娠の捨て子、売春、殺人等が、さらに更年期にかけて離婚が増加しております。一方男性においては仕事中毒のアルコール依存症的ビジネスマンが増加、ギャンブル、暴力、神経症、さらに胃潰瘍、糖尿病、高血圧などの身体的疾患にまで到っております。そしてこれらの諸問題はもはや家庭内では解決することができなくなつてきております。

そこでわが国における男性と女性の役割や、その地位について二千年の歴史を振り返って考えてみました。古代の日本は母系社会で奴隷制度のため通い婚で女性は夫に依存せずまた多婚でありました。しかし封建時代になり次第と家族制度のため女性の家や土地の相続権はなくなり、武士は終身雇用制のため領主に誠実と服従を示し、失敗は切腹により償われました。女性は離婚の自由もなく

姦通は死罪に値し、現在の性のモラルはこの影響を受けています。将軍は税金の徴収をはかるため自由な恋愛による住民の移動を禁ずる手段として種々の行動を規制しました。赤貧洗うがごとしの農家では墮胎や間引きが行なわれましたが、これらがわずか百年前までのことですから、戦後の苦しい時代に私たちが人工妊娠中絶をえらんだ女性の態度を理解することができず。現在の社会は封建時代の武士と同様、終身雇用制で会社員は会社に忠誠を示し、家族のための時間はありません。主婦は学歴尊重のため子供の教育に熱心で学校の意見も一致しているのです。子供は遊ぶ暇もなく不幸であります。親や勉強から逃れ便利になったオートメーションに依存し何でも日常生活がお金さえあれば自由にできます。つまりヒューマンの世界からマシンの世界に入ってしまったのでこのような精神的状況が子供の成長に好ましくありません。

私の以前の調査によりすると、思春期の月経異常の背景として父親の陰性像があります。父親が死亡、不在あるいは厳格で、一方母親は過保

図1 わが国女性のライフサイクルのモデル(総理府 S.55年)



護、支配的で母親の死亡例は少ないようです。これらの事から家庭における父親と母親の役割について考える必要があります。若い母親は核家族のため、育児に関して無知や誤解が多く、子供は神経症的に、母親は育児ノイローゼになり、これが圧点に達すると子供を殺すこともあります。これを防ぐには夫や家族の支持が必要です。



講演する堀口先生

たものも歴史的にみると、文化や政治の影響をうけており生後の環境、教育、習慣、信仰およびタブーなどが深く関与しております。

老年期では、仕事中毒のため家庭生活の方法を知らない退職の夫は、粗大ゴミとなり、家族に疎外されてボケ老人となります。もし中年期に妻を助け、子供に接していれば、家族との相互作用もよく幸福な余生を送ることができるでしょう。生殖や生命維持に関する本能と思われてい

結論、第二次世界大戦のあと六百年続いた封建制度が終わり家族制度の崩壊、男女同権などにより、男性は家長としての権威を失いました。一方母性性の欠如や母性機能の低下は、非常にたくさん問題を含んでおり、これらが変貌しつつある日本の社会に起こっております。それゆえ、男性はもつと家族に接すべきであります。そうすれば人生の終わりに粗大ゴミになることもありません。一方女性性は自立して社会に参加すべきです。生殖機能の面においても自立して対等であればなりません。なぜなら、まだ男性が女性に平等を与えていないからです。

### 若い会員達の公開討論会 に出席して

独協医科大学産婦人科助教授

堀口 文

昭和五十九年七月三十日、国際女医学会がバンクーバーで開催されその一セッションである表題の会議に出席しましたので印象をまとめてみました。

各国の出席者を集め、一時間半にわたって開催されました。司会は西独のウテ・オテンおよび日本の小野春生前会長らで、オーストリア、オーストラリア、ブラジル、カナダ、デンマーク、韓国、イラン、インド、イタリア、西独、イギリス、ケニア、オランダ、ニュージーランド、ナイ

ジェリアおよびスコットランドの十七カ国が発表し討議に参加しました。この会議の目的は女医の立場を理解し、その発展を助け女医が社会に貢献できるように配慮するためのものであります。これらの内容の共通点は、女医の地位はまだ低く、医学部の学生時代は男女ともに平等であります。が、卒後家庭をもつと家事や妊娠のため充分な卒後教育がうけられず、またその後戻すべき地位を失うというものであります。家事はまだ女性に依存されており社会では平等に働いていても帰宅すると夫は休息に入ることができるとに妻は家事をしなければならず、育児や家事を平等に分担するようになるのはまだ遠い先のことのようにであり、これがヨーロッパの先進国からの一致した意見でありました。とくにオーストリアでは女医の子供に対する罪悪感、スコットランドの女医の専門科目に産婦人科や小児科などが多い偏りがあること、西独の五割の女医が休職状態にあることなどが問題としてとりあげられていました。オーストラリアでも卒後、女医に心理的な面で問題があり、アフリカでは家族制度のため女医は家事をしなければならず、男医のみが優遇され、女性はまだまだ結婚が大切な目標で子供を産みたくり、女医もまだ家族制度における嫁の立場を選ばざるを得ないとのことでありました。ナイロビでは医科大学ができたばかりで問題はこれからでしょうとのべました。

日本においてはすでに私たちの偉大な先駆者たちが女医への道を開いたように現在の私たちは女医の地位や家庭における役割の平等、さらに女性の役割としての妊娠や分娩、また育児をハンディキャップとしてではなく、利点として特色づけるような道を自分たちの力で切り開いて行かねばならないと思いました。また私の同伴者として独協医大の女子学生三名をこの会議に出席させていただきましたが、若い彼女たちがわか

### カナディアン・ロッキーの旅

千代田支部 井上 柳子

カウボーイの町として有名な、カルガリーから、バスは姍々と続くハイウェイをひたすら走る。やがて、右に左に、窓外にはカナダグロッキー山脈の雄大な岩山が展開。四時起床の強行軍に、ウツラウツラしていた眼もパッチリと開く。三千メートル級の断層地形の巨峰が、屏風のようにつながり、真白な氷河を戴き、山麓にモミヤカラマツの針葉樹林、マウンテンポプラ、シラカバの森、荒涼しい岩壁にマウンテン・シープが遊んでいたり、ビーバーが泳いでいる淡青色の沼、澄んだ靑空が一体となった美しい風景を眺めながら、あこがれのレイクルウイズに着く。吊



アサヘスカ氷河の舌端部

らないながらも熱心に傾聴し、たいへん印象深いものがあつたようで、医師として女医として、また人間として成長するための精神面に役立つことと感じました。最後になりましたがこれら学生に何かと暖かいお心をお寄せ下さり、おはげまし下さった三神美和会長をはじめ、会議に参加されました多くの会員の諸先生方に紙上をかり、厚くお礼申し上げます。



レイクルイース



観光の最盛期とあって、夜の十二時頃も乗用車の列が長々と静かに続いていった。

翌日も上天気、瀧見物の「霧の乙女号」に乗るには下手の河岸にケールカーで五十メートルくらい下り、乗船する時にフード付きの厚いゴムのコートを手渡される。これが黒くて大きいので着た姿が面白い。船はまずアメリカ領土側に近いアメリカ瀧の下に近づいてシブキをたくさん浴びた後、ゴート島の下を静かに通り、次に壮大なカナダ瀧の下に来ると、大嵐の時はかくやとばかりのシブキが雨となって科に乗客に降りそそぎ船は大遅れに遅れる。すぐ近くの河岸に下船し五十メートルくらい上って、瀧の落ちる際を横から眺めて写真を撮る。附近は一大公園になっていて観光客が多いが、紙屑一つ

なく、広告板もまったくないのでまことにすっきりしている。緑の多いのはもちろんだが、ここにはカメラが多くいてこれも可愛い景物である。昼食後バスは発電所の外観などを見ながら、ナイアガラ河に沿って走り、世界一大きいという花時計を見物した後、ハイウェイを昨日と逆にトロント市へと走った。

### アラスカ・コースを旅して

神奈川支部 原 弥栄子

第十九回国際女医学会に出席する前に、アラスカを廻って氷河を見ようとアラスカコースを選んだ一行六名は、七月二十四日午後五時成田を出発。日付変更線を跨いで同日の午後六時に、アンカレッジに到着した。一七七八年、キャプテン・クックが船を下ろした史実から名付けられたこの街は広大なアラスカ州の国際的玄関でもあり、州都ジュノーを凌ぎ有名である。このアンカレッジを拠点として、白夜の長い一日をフルに使って、市内観光を始めとして多くの中南部アラスカの観光を楽しんだ。市の背後に連なるチュガッチ山脈は四千メートルを越す高峰を多く持ち、その峰々に抱かれて多くの大小の氷

市でもあるトロントは、人口三百万でカナダ最大の都市とのことである。高層建物や街を歩いている人の多いことなど活気を感じさせる。屋上にヘリコプターが降りられるという小児専門病院等をバスの中から見る。州議事堂前で、夏休み中州に雇われたという学生アルバイトが、二百年前の服装をして観光客の写真に入っ

てサービスしていたが、その中の女子学生の笑顔が特に嬉しそうで印象深かった。建築様式が新しい、新市庁舎前に降りた時は午後六時。まだ見たい所がたくさん残ったがこの夜はロイヤルヨークホテルに泊り、翌朝トロント空港を出発。バンクーバー空港を経由して帰国したのだった。この旅はカナダの代表的な所を巡るために、やや強行軍ではあったが、天候に恵まれ全員の方に大過なく順調に、美しい各地を観て廻ることができてよかった。



アラスカの観光船

河が見られる。いわゆるグレイシャーブルーと呼ばれる氷河独得の神秘的な青さが万年雪の白さと鮮かな対

照美を見せる。さらに路傍に咲くヤナギラン、ヒメヤナギランの赤い花の可憐な美しさを満喫しながら、ハイウェイをボーテージの氷河湖を訪ねる。二つ氷河が合流して注ぎ込むこの湖は、すぐ目前に青い氷山が見られて感激も一入である。アルペンスキーのワールドカップの会場になるアリエスカ・リゾート地の雄大さ、ハイウェイに出没する山岳野生動物の姿、キングサトモンが廻る渓谷の急流、山間にひっそりと眠る色彩豊かな御棺が並ぶインディアン墓地とロシア正教の小さな教会、素材でユニークなアラスカ鉄道、寒冷地農業を開花させたアラスカ州立大学の実験農場。北極海の油田から、アラスカ湾の積み出し港まで約千二百キロ。一日二百万バレルの石油を輸送する耐震保温付、その太い鋼鉄管が蛇々と続くアラスカパイプライン、等見るものは多い。しかしこの旅の圧巻は、広大なコロンビア大氷河が、チュガッチ山系の源から発して六十

ハイウェイ料金所



四キロ、プリンスウィリウムス湾に流れこむその河口を、海上から眺める船の旅であろう。河口の幅は約四キロ。氷塔の海面からの高さは約百メートルを越すという。グレイシャーブルーに輝く氷塔の頂上から、轟音と水煙をあげて崩壊してゆくさまは、まさに神のわざであり、その美しさは筆舌につくし難い。造形の夢を駆りたてる大小の氷山の間を北海の野生動物が遊泳するのを散見するとき、自然と人間の見事な交流がそこに在る。自然を守るために、きびしい規制があるというアラスカの姿勢を羨しいと思った。六人という小人数が幸し、さらに好天に恵まれて、実に楽しい旅を送ることができた。ご同行の先生方に感謝する次第である。



国際女医会各会議における論文発表一覧

開催年	開催国	開催地	演題	日本からの演題提出者名	演題
1966年(S41) 1968年(S43)	アメリカ オーストリア	ロチェスター ウィーン	女医に適した活動分野について 飢える百万人	山崎 倫子 山崎 倫子	日本における女医の需要 宗教心理, 教育的見地から見た 人口過剰とその抑制に対する問題
1970年(S45)	オーストラリア	メルボルン	産業にたずさわる女性の健康	小野 春生 石津 澄子	日本における小児の栄養と発育 勤労婦人の職業病
1972年(S47)	フランス	パリ	トキソプラズマ症	三神 美和 小山 千代	日本におけるトキソプラズマ 症
1974年(S49)	ブラジル	リオ・デ・ジャ ネイロ	健康に影響する遺伝および遺伝 因子について	山崎 倫子 添田 百枝	水俣病メチル水銀中毒 公害によるアレルギー性疾患の 治療に関する研究 有機燐中毒について
1976年(S51)	日本	東京	ウイルス性疾患とその後遺症 地域医療における女医の役割	小暮美津子 柳瀬 路子, 湯本アサ, 他 金子 行子 亀山 和子 林 福子 黒川きみえ 添田 百枝	日本女医の実態調査 日本における急性出血性結膜炎 蛍光抗体法によるヘルペス性 角膜炎の迅速診断 早期胃癌の内視鏡診断 抗ウイルス性物質ソエドマイシ ン(Ms)に関する研究
1978年(S53)	西ドイツ	ベルリン	マスメディアと医療	佐藤千代子 野村多賀子 森川みどり 山崎 倫子 藤田 親代	マスメディアと医療 日本における医学情報の誤解を 招き易いマスコミの報道 ——小児における気管支喘息と 大気汚染の関連から——
1980年(S55)	イギリス	バーミンガム	発展途上国及び先進国におけ る医療の優先権について	桑江ときは 小林 梅子 藤田 親代	日本における結核死亡の傾向と 対策 日本における急性伝染病 ——その発生の変遷と現状にお ける問題点—— 喘息児童の医療を優先させた長 期入院療法の成果について
1982年(S57)	フィリピン	マニラ	心ある医療	山崎 倫子 藤田 親代	老人の健康と福祉 医は仁術なり
1984年(S59)	カナダ	バンクーバー	男と女	堀口 文 野沢 良美	変貌する日本の社会における男と女 産科異常における季節性について

会員の消息

\*吉成京子(千葉支部)

東女医・昭和9年卒

昭和59年春の叙勲において、

教育研究功労者として、この道一

筋に歩まれた功績に対し、勳四等

瑞宝章を受けられた。

\*和<sup>り</sup>美和子(千葉支部)

東女医・昭和10年卒

昭和59年1月、長年の地域医

療功労者として、医療功労賞を受

賞された。

\*佐野アヤ子(港支部)

東女医・昭和15年卒

国際女医会第19回国際会議に

おいて、前副会長としての功績を

認められ、国際女医会名誉会員に

推選された。

\*橋本葉子(東女医学内支部)

東女医・昭和31年卒

本年4月1日付をもって東京

女子医大生理学教授に就任された。

\*三神美和(世田谷支部)

東女医・大正3年卒

昭和59年10月3日「悔いあり

てこそ」と題して女医一筋六十年

の自叙伝を出版された。

# 荻野吟子を語る

庶務部 久保田くら

日本の公許女医一号荻野吟子が誕生してから今年で百年になる。

荻野さんは、父綾三郎、母嘉与の五女として嘉永四年（一八五二）三月三日、現在埼玉県大里郡妻沼町大字俵瀬、当時俵瀬村の名主の家に生まれた。

## さんの学問の始

万延元年（一八六〇）に静軒寺門彌五左衛門が妻沼村に私塾「両宜塾」を開設。さん十歳の時、この塾に入門。咬菜根百事成勿厭蔬食の実践をみるとしていた教化理論を十歳の少女が理解したか否か、不明であるが、さんの人間形成に大きな影響を与えていることはいふまでもない。その後、文久三年（一八六三）隣り村葛和田村大龍寺の名僧北条察源が開設した寺子屋行余書院に学ぶ希望を父に申し出た。綾三郎は、さんが一角の家に嫁すことになれば、知識不足では肩身が狭かろうとして、これを許した。さんは論語素読も素暗らしく、両宜塾主静軒が「荻野家に天才少女あり」と認めるほどであった。行余書院において二カ年基礎教育を受け、次にまた両宜塾を継承した松本万年に師事。明眸皓齒、頭腦明晰

そして学問熱心のさんはこの塾で個人的講義をうけ、ますます字才が伸びたのであった。

## さんの結婚

才色兼備のさんは当時の名望家現在熊谷市、当時上川上村の苗字帯刀ご免の名主の長男、稲村貫一郎の嫁に望まれ、父はさんに相談なしに話をすすめ、祝儀万端を決めた。慶応四年、明治元年（一八六八）のことである。

## 閨秀画家奥原晴湖との出会い

婚家の隠居所に故あって仮寓していた美人に紹介された。晴湖は見識高いさんの才能を愛し、さんもまた文化の薫り高い晴湖をしたわしく思う相思の中となり、互いに芸術や人生観について語る機を度重ねることになった。後日医学を志すことを決意するおりにも、晴湖のアドバイスを尊重した。晴湖はやがて中央画壇にみとめられる人になった。

## さん病床に伏す

しばらくの結婚生活の間に、さんは腰痛と腹痛に加えて膿様の分泌物（おりもの）があり、苦痛のために実家にかえり、静養していた。さんの師松本万年は膈内粘膜炎が炎症をおこす原因の大きなものは、淋病に感染すること判断し、「貫一郎は病持ちか」とさんに尋ねてみた。貫一郎は真面目を絵に書いたような人であり、学問好きの人格者であるから、悪病に罹る心配はないとの答えがえつてきた。さんは松本万年のくすり

を飲みさらに静養につとめた。

## さん離婚を決意

稲村家の長男の嫁であるのに、主治医の万年から、「あるいは不妊症になるかも知れぬ」といわれたところから離婚を決意したのであった。一方、晴湖や万年の娘荻江からの影響も大きく、学問で身をたてるには離婚以外に方法はないとの結論に達し、ついにその向を父に打ち明け、真一郎の両親も子供を産めぬとあつてはやむを得ないとして、さんの申し入れを了解し、同意した。明治三年（一八七〇）①離婚の上はさんを貫一郎の妹分とする。②離婚後も稲村荻野両家は親戚として交際する。という少しくおかしな話し合いをもつて離婚が成立したという。

その後もさんの病状はおもわしくなく、順天堂に入院した。この入院は万年が漢方の治療には限界があるので静軒の両宜塾での同門、順天堂の佐藤尚中院長に相談の上のことであった。明治三年八月一日のことである。

## 医学を志す

さんは良家の子女、儒学を身につけた知性豊かな女性である。診療とはいへ男性に性器をみせる、触れられる等の事は耐え難く、羞恥と屈辱感を味わった。この思いがさんに医を志す決意を強くさせたものと考えられる。貫一郎と離婚の時は、単に学問で身をたてるという、莫としたものであったが、入院により彼女の目標がはっきりときまってきた。やがて病いも軽快し退院。女医になる決心を奥原晴湖にうちあけた。人々は文明開化を口にはするが、女医の必要性に考え至る人はないにちがいない。自分の思う道を極めめることはいかなる道であっても尊いことである。役にたつことがあつたら、何らかの力になりたいと、尊敬する晴湖から賛成の言葉をもらい、かつ励まされて、さんの決意は不動のものとなつた。しかし、理想の実現はむずかしく、当時女性を受け入れる医学の養成機関は皆無であつた。

## 父綾三郎死去

明治六年（一八七三）、父は六十四歳をもって世を去つた。綾三郎は長子保坪に、さんの面倒をよろしくと、しかと頼んだので父の遺言を長兄は深く心にとどめおき、女医志望の妹にながい間応援を惜しまなかつた。父の葬儀に貫一郎も会葬した。さんは父の七七忌を済ませて上京。

## 井上頼園の門下生となる

明治五年晴湖のすすめで、国学では日本の五指に数えられ、漢方医学者でもある井上頼園の門下生になつた。さんにはようやく志に向かつて一歩前進した思いの入門である。さもあるう、この時まさに維新の頃で

ある。ところが頼園から後妻にと望まれた。さんにその気は毛頭ないが師の申し込みであるところから進退極まっていた。

## 甲府内藤塾の助教として赴任

内藤満寿子にのぞまれて甲府におもむいたさんを、内藤は開拓精神啓蒙の生きた教材と尊重し、さんは舎監として寮生にも厳しい躰をおこたらなかつた。人間的でもあり、きびしさを怖れられてもいた。

## 東京女子師範学校に入学

明治八年、東京女子師範学校（現お茶の水女子大）の開校に伴ない、万年の娘荻江はその教員を命じられた際、さんも当校に入学してはどうかとすすめた。さんは甲府を去り入学をきめた。この時、さんを吟子と署名することを決めた。ここにおいて目的を異にする学問と取り組み、只管勉学にいそしんだ。彼女の人間形成にこれもまた大きなプラスになつたことは否めない。明治十二年二月二回生として卒業。卒業の当日、女子師範の永井久一教授が十八名の卒業生に各人の志望をきいたので、吟子は医学を志す旨を告げたところ、医学界の有力者、軍医総監として東京大学医学部総務心得という立派な方、石黒忠恵に紹介してくれた。

石黒は吟子の容姿端麗、不逞転の精神の持主のこの女性は女医開業の突破口を開くかも知れないとの予測をした。ただ、文明開花とはいいなから、具体的に医学の修練の場に女性を入門させるところは一つもなか

った。

好寿院入門

さすがの石黒もこまり果て、石黒の友人高階経徳(宮内省侍医)をくどき落し、女性はこのまるといふのを無理に承知させ、入学させてもらった。この時、上京して六年になっていた。さまざまの体験、生来の素質とみがきぬかれた才能により、男尊女卑の世の中で負けじ魂を發揮し、苦難を乗り越えつつ勉強をつづけた彼女の人柄を見こみ実業家高島嘉衛門はじめ良家の子女の家庭教師の依頼もあり、長兄からの仕送りもあつて吟子は勉学の費用にこと欠かなかつた。一部の書物の報じている貧しさはなかつた。

好寿院卒業。志をたてて上京し、すでに九年を経過した。

医術開業試験願書却下

当時長与専齋が衛生局長であり、内務省衛生局内では「女子にも試験の結果をみて医業を許可しよう」という検討はされていたが、吟子の願書は東京においても埼玉県でも内務省でも願書は却下された。彼女はその頃、女性雑誌に一文をよせていた。その一部、「進退はれ谷まり百術総て尽きぬ、肉骨枯れ、心神いよいよ激昂す」とある。万一この情況が連続するならば外国にゆく以外に方法はないと申していた。この嘆きに同情が集る向もあつた。しかし明治十七年一月一日より施行の「医師免許規則」が公布されていた。

明治十七年前期医術開業試験に合

格。

明治十八年三月後期試験に合格。

吟子は兄保坪、姉友子を通じ貫一郎にその喜びを報らせた。明治十八年四月母嘉世を失なつた。母の臨終に彼女が奇想天外の女医になり得たことを告げ、母をよろこばすことができた。貫一郎も母の見舞に訪れ、合格をよろこび、開業資金にと祝いを差出したという。二人が離婚して十五年の歳月がたつていた。

荻野医院

明治十八年五月、本郷湯島三組町に産婦人科を開業。患者多数のため下谷黒門町二十二番地に二階建の家を得て移転。吟子の名声高まり、女医志望者増加する。

医籍登録女医一号

明治十九年十二月。

吟子キリスト教に入信。明治十九年六月洗礼をうける。東京婦人矯風会の結成にも協力することとなり、吟子は精神的経済的に充実し、日本婦人衛生会幹事の仕事にも精励する等多忙を極める日々となつた。

志方之善と結婚

吟子はキリスト教関係に知己多数、その中に伝道に協力していた熊本県出身で同志社大学の二十七歳の学生、志方之善と知り合う。彼は新島襄に洗礼をうけた真面目な教徒であつた。吟子四十歳、容姿端麗のみならず女権論、結婚論などさえた弁舌、情熱的論旨に志方は共鳴するところ多く、吟子もまた、ゆきずりの人とするには惜しいとの思いをいだきつつ、親

交を重ねるうちに二人の仲は結婚にまで発展した。ただし、いざ結婚となつた時、荻野一族も大反対、二人に洗礼を与えた先輩も媒酌の労をとつてはくれなかつた。それは年齢の差のこともあるが、吟子は女医一号という名譽ある女性であり、人物的にも立派であるところからである。

夫渡道

志方は多感なキリスト者、理想郷建立のために、單身渡道した。明治二十四年五月(一八九一)。長兄保坪死去のため、会葬の際、長姉友子とあい、渡道を反対されたが吟子は決心がかたく、彼女は医業をやめ、再度明治女学校の舎監となり、麹町区六番町の明治女学校内に住み、当時の校長の発刊誌女学雑誌に論文を投稿した(明治二十六年十一月発表)。

吟子、夫の要請により渡道

明治二十九年五月頃であらうかと記録されている。志方は北海道の雪深い未開の地に敬愛する吟子をやむを得ぬ事情でよんだが、原始的生活をながくつづけさせるに忍びず、雪解けを待ち瀬棚町に移住。ぎん開業。患者の出入り多く、吟子の開業により生計をたてていることは否めなかつた。この地でもなお婦人会の結成をなし、淑徳婦人会と名づけ、義捐金の募金をおこない、地域社会に貢献することを怠らず、常に婦人の地位向上につくし、また、瀬棚日曜学校を創設し、念入りの実践のともなう生活をつづけていた。

夫志方同志社大学に再入学。結婚

のために中退したことを残念に思う。志方は残りの学年をおえるべく大学にもどり、所定の年数をへて卒業した。志方の留守に札幌に開業をしたが風土になじめぬとして吟子は瀬棚にもどり、しばらくして志方も瀬棚にもどつた。

夫志方死去する

四十二歳の若さでおしくも死去する。吟子は瀬棚に養女とともにどまつて医業をつづけていたが、夫の死後三年、五十八歳の吟子は老境を感じていた矢先、姉友子や近親一同が熱心に帰京をすすめる手紙に接した。

吟子帰京する

夫の眠るイマヌエルの丘の墓地に別れを告げ、養女トミとともに帰京。東京では姉友子と三人の生活をはじめた。近親のあたたかい愛情で生活に不自由はなかつたが、徒食するのは性格が許さないし、自分で切り開いた医業を開始した。

本所小梅町に明治四十二年正月、婦人科小児科を開業した。十二年ぶりの東京は医術その他に変化も進歩も多く、もはや以前の名声は我が身にもどらぬ事を知つたが、医は仁術に変わりはないとの思いの強い無欲の吟子の人徳にひきつけられて、患者は日々ふえつつあつた。

十二年の間に彼女につづく女医が相当数医籍に登録していた。その中二十七番目の登録をした吉岡弥生は、明治三十三年十二月五日済生学舎が女子学生を拒絶したことに憤慨して、

夫荒太のドイツ語私塾至誠学院の一室に東京女医学校を開設、後進の養成にふみ切つていた。

日本女医学会のはじめ

明治三十五年(一九〇二)、前田園子、吉岡弥生らが提唱し、荻野吟子、多川澄、定方亀代および杉田鶴子ら草創期の女医相寄り親睦の会をはじめめることにはじまる。

日本女医学会雑誌発刊を前に春季例会を大正二年三月二十二日比谷松本楼に開き、例会を東京にて開くこと、日本女医学会誌を編集することをきめた。当日出席の荻野吟子に、「本邦女医の嚆矢荻野吟子女史」という題のもとに女医受験に至るまでの苦心談を掲載することを依頼。

この日、女医公許一号という名譽ある金字塔はかがやいている事を知り、吟子は極めて愉快にその日をすごした。

吟子病床に伏す、昇天

その次の日、三月二十三日から病いに伏し、養女トミはじめ姉友子および荻野家の近親一同の温かい看護の中で養生につとめていたが、書物によればはじめは肋膜炎であつたといふのに、五月二十三日脳動脈の硬化で卒倒。その後、一カ月にして、吟子昇天、六十三歳であつた。葬儀は六月二十五日、本郷教会において海老名牧師の司会により莊重におこなわれた。近親知人および女医会員多数参列、会葬した。残念ながら彼女が日本女医学会雑誌第一号に掲載された論文は彼女の葬儀の日に発刊さ

れた。その遺稿にもなった論文は、

「温故知新は学ぶものの本領なり」と書き出され、医学の古い歴史を探り、今日ある新知識(当時)は間接に女性の関与があつたればこそと述べている。①女子の医育機関をさらに多くすべし、各文科系の大学に女子の医育機関の附設を強くうながしている。②医は女子に適する仕事であるのみか、女子特有の天職である。③医学は男子のまざるとるべき道ではない。男子外にあつて天下国家を論ずるべきである。したがつて男子は医の道から宜しく去り、女子にまかせるべきと彼女は言う。女医公許第一号の意気盛んなところを示して余りあるものである。(日本女医史に全文掲載)。

人間形成を自らの手で努力し、積み重ねたもので、この人間形成があつてこそ何ごとにも耐え得たものと思われる。夫志方氏との結婚も純なるものを求めあう二人であつたから年齢差をこえて苦難の道を選んだかと察しられ、他からは反対の火の手が上がつていてもともに幸せであつたかと思えてならない。荻野吟子死後、女子の医育機関が東京女子医専、帝国女子医専、大阪女子医専が次々設立され、今や女子が大学に入学するを当然としている。日本女医学会ますます隆盛、国際女医学会にも参加して久しい。女性代議士、学部長ありという現代である。吟子の苦勞の後に、東に吉岡弥生、西に福井繁子のような先達が生まれたこともわれわれに

は現在の幸を齎してくれる基礎であつた。そしてなお昔々、高知の宿毛で系脈をひいた野中婉(亨保、一七二八)、渡合園(寛文、一六六四)森崎保佑(文政、一八一八—一八二九)楠本いね(文政、一八二二—一八二九)大場小巻(江戸時代)等の公許以前の女医がおられたが荻野吟子によりここに大きなピリオドが打たれた。荻野吟子はやはり偉大な人である。

荻野吟子および以前以後のバイオニアによりわれわれの今の地位を得て幸せに生きています。今日諸先輩ご存命なら、われらに何とご教示下さるか、うかがう事ができないのは残念至極である。「荻野吟子百年」に際し、心新たにいたすべく、先人に謝して、日本女医学会理事の有志は六月二十三日雑司ヶ谷の墓地に眠る荻野吟子の墓にもうで、ご冥福を祈念した。

なお、稲村貫一郎の曾孫山口敬一様から再三、日本女医学会に関する書物の離縁は誤りである、訂正を望む。との書面を戴いている。私がこのたび関係書類を読んだところでは、貫一郎はまことに立派な人格の持主で、あやしい病気に罹患することなどないものと確信し、この稿をおわる。



### 輝ける埋没

いたいたしいほどのうら若さで結婚に破れて、世の中の因襲的なもの頼りなさや浅ましさを見尽した荻野さんが、こうしていつも創造の苦悩の中に飛びこみ、そうして断えず人のために道を拓くものとなりながら、その結果に報われることを一切念としなかつたところ、それ故に今日これだけの女医の発達を見ながら荻野さんの名を知るものが少ないのだと思ひます。しかし私共はここの先駆者を忘れてはならない。ことにその女医を志された動機、その愛の精神を尊重し、今後女医となる人はこれに共鳴してこの拓かれた道に乗り集まるのでなくてはならないのであります。

(吉岡弥生先生著「わが自叙伝」より)

## 日本女医学会東京都支部連合会

### 結成なる

東京都支部連合会会長 今野 信子

日本女医学会の皆様、猛暑つづきの今夏でしたが、ご気嫌よくご活躍のこととおよろこび申し上げます。

今度記念すべき本誌百号の貴重な紙面を、日本女医学会東京都支部連合会のために割愛いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。なお連合会設立以来日本女医学会会長三神先生はじめ、執行部のご高配に對して、この紙上よりあわせて感謝申し上げる次第でございます。

さて東京都支部連合会設立以来、その後どのように運営されているのか、また他府県の会員の方々にも設立趣意等について、ご理解いただくことも、意義ある事と考え、ここにペンをとった次第でございます。

東京都は二十五の支部にわかれ、会員数は八百名余を数えます。従来各地区支部はそれぞれの活動をつづけていましたが、各支部が合流し、連合して行動したという事はありませんでした。この二十五支部八百余名の会員が、一つにまとまって事にあたれば、何か社会に貢献する仕事もできるのではないかと、また日本女医学会の支部連合体として、本部事業支援の力になるのではないかと、いう発想のもとに、東京都支部連合会設

立に向かつて準備されたわけであり、ここに改めて申すまでもなく、設立にあたっては、二十五の支部長を通じ、地区会員のお考えをまとめられ、この総意のもとに本年二月十九日、発会式のはこびとなり、東京都支部連合会の誕生となつたわけでありました。その後、ご承知のように、第一回の総会を五月十九日開催し、本会の内規が原案通り可決され、つづいて科学万博医療参加が決議されたのであります。現在この医療参加について準備委員会がもたれ、一路準備に邁進中の現状であります。

今度はずいぶん微力な私が会長に選出されこの責任の重さをひしひしと覚えている昨今でございますが、また一方では、三神先生、柳瀬先生の両副会長、ならびに一騎当千の各支部長、副支部長の諸先生にささえられております会長は、なんと幸せな事かとも感じている次第でございます。

本会の根幹は、総会で可決されました内規三条にうたつてありますように、「本会は東京都における日本女医学会支部相互の連絡を旨とし、日本女医学会本部の事業に協力すること及び相互の懇親融和を目的とする」

という事にあります。私ども連合会員はこの三条をふまえて日本女医学会の大きな連合体として、あくまで本部の事業に協力し、本部よりたよりにされるたくましい存在でなければなりません。二十五の支部相互がしっかりと手をつなぐ事は、大きな和を生む事です。大きな和こそ総ての道に通じる原動力になるものです。総会で決議され現在準備中の科学万博医療参加は、スタートしたばかりの連合会にとって、会員相互のふれ

### 復刊百号を迎えて

広報部 八木 貞子



名誉会員大村ひさ美先生を尋ねて

あいの場を作り、より理解し、より友情を深める良いチャンスとなりましょう。先年大阪万博にて日本女医学会は立派な業績を残されました。今回の医療参加も、前回に劣らぬよう整然と遂行してゆかねばなりません。何卒会員の皆様はもろろん、会員でない先生にも奮ってご参加いただき、連合会の初仕事であります科学万博医療参加事業が円滑に運営できますようご協力、ご支援のほど心よりお願いするものでございます。

先日広報部会において、復刊百号を企画するに当たり、復刊第一号からつまびらかに現在に至る会誌に目を通し、改めて先人たちの努力と熱意の尊さ、烈々とした歴史の重みに接し、感慨深いものがあった。

大正二年六月二十五日、寄付によって、日本女医学会雑誌創刊号が発刊され、その数、三百部。そして昭和十九年空襲激化により中止となり、再び昭和三十年五月、戦後初の第一回総会が開催されてより三年目、時熟して日本女医学会雑誌は名も一新して「日本女医学会誌」と改名され、B5判、二十頁余の復刊第一号が発行されてより、今日百号を迎えるに至

った(創刊号から第百十九号までは残念ながら戦争中の混乱のためその資料は保存されていない。万一保存しておられる方がありましたら、ご提供いただければ幸いです)。

当時の会員数、なお僅少のため、会誌発行にもご苦労があったようであり、会誌の定価が二十円と記入されている。また資産の部としては、富士銀行に二一六、七六一円とのみ報告されていたのは印象的である。(当時の年会費は三百円)

部会において、お二人の名誉会員をインタビューしようという案が出てさっそくご養生中の大村ひさ美先生のご都合を伺い、広報部の三人(平瀬、川口、八木)が九月八日、中野のお宅へ伺い、思い出話に時を過ぎた。先生は来たる十一月十三日で満八十三歳になられるというご高齢にもかかわらず、色艶のよいお顔で、今はすべての情熱をもやし尽くした満足感を胸に、近親者に囲まれ、開の世界に強く明るく静かな余生を送っておられた。先生には、われわれが同うのを首を長くしてお待ちくだされた様子で、終始手土産に持参した紺のセーターを肩にして、うれし、うれしいの言葉を繰り返され、われわれの手を固く握って離されなかつた。

十月二十七日には岡崎において第七回講演研修会が催され、十一月には荻野吟子、公許女医誕生の百年記念事業が開催される。また来年三月には科学万博の医療参加のため、東

京都支部連合会は日夜その準備に多忙のようである。

こうして日本女医学会の歴史は尽きることなく展開されることを、心から祝福したい。

つきに復刊第一号発行の当時より現在に至る活動状況の概略を列記し、その足跡をみる。

#### 日本女医学会活動状況概略

- 昭和30年 日本女医学会戦後再建第一回総会(東京)
- 昭和31年 国際女医学会アジア会議(マニラ)日本代表として小林潔子ほか一名出席。
- 昭和32年 国際女医会理事會(スイス) 月本より大原一枝出席し、日本女医学会の国際的名称決まる。
- 昭和32年 日本女医学会第二回総会(東京)
- 昭和32年 国際女医会加入を決定
- 昭和33年 日本女医学会第三回総会(東京)
- 昭和33年 日本女医学会雑誌、日本女医学会誌と改称、復刊す。
- 昭和33年 国際女医会議(ロンドン) 日本より龍智恵子他二名出席。
- 昭和34年 第八回汎太平洋東南アジア婦人會議(東京) 日本より山本杉他二十五名出席。
- 昭和34年 日本女医学会第四回総会(東京) 会長吉岡弥生永眠され、佐藤やい新会長に就任。
- 昭和35年 日本女医学会第五回総会(大阪) 国際女医会議(ドイツ) 日本女医学会より川那部喜美子等、十九名出席。
- 昭和36年 日本女医学会第六回総会(東京) 会長佐藤やい。
- 昭和37年 日本女医学会発行さる。
- 昭和37年 日本女医学会第七回総会(東京) 国際女医会議(フィリピン) 日本より十九名出席。
- 昭和38年 日本女医学会第八回総会(東京)
- 昭和39年 日本女医学会第九回総会(東京) 会長佐藤やい永眠され、後任として龍智恵子新会長に就任。
- 昭和40年 国際女医会議(ノルウェー) 日本より二十六名出席。
- 昭和40年 日本女医学会第十回総会(宮城)
- 昭和41年 日本女医学会第十一回総会(愛知) 国際女医会議(アメリカ) 日本より三十名出席。
- 昭和42年 日本女医学会第十二回総会(東京) 会長三神美和就任。
- 昭和43年 日本女医学会年金制度実施
- 昭和43年 日本万国博覧会参加医療奉仕を決定。
- 昭和43年 日本女医学会臨時総会(東京)
- 昭和43年 日本女医学会第十三回総会(広島) 国際女医会議(オーストリア)

日本より四十四名出席。  
第十一回汎太平洋東南アジア婦人会  
議(ホノルル)日本より山崎倫子  
出席。

●昭和44年

吉岡弥生賞設定。第一回授賞者二名。  
社団法人日本女医会の設立許可さる。

日本女医会第十四回総会(大阪)

●昭和45年

日本女医会定款および定款施行規則  
施行。

日本万国博覧会において百八十三日  
間の医療奉仕実施。動員数千七百  
二十六名。

日本女医会第十五回総会(東京)役  
員改選あり、会長三神美和就任。

日本女医会臨時総会(東京)

国際女医会議(オーストラリア)日  
本より四十七名出席。

日本女医会考案のルーペンゲン実用  
新案特許となる。

●昭和46年

日本女医会第十六回総会(高知)  
国際女医会第十五回国際会議を日本  
に招致することに決定。

●昭和47年

日本女医会第十七回総会(静岡)  
日本女医会優功賞を設定、第二回授賞  
者二名。

国際女医会議(フランス)日本より  
九十名出席。

●昭和48年

日本女医会第十八回総会(東京)役  
員の改選あり、会長三神美和就任。  
国際女医会組織委員会設立。

●昭和49年

国際女医会議を成功させる会設立。  
日本女医会第十九回総会(金沢)  
国際女医会議(ブラジル)日本より  
九十名出席。

国際女医会会長に、小野春生就任。  
●昭和50年

日本女医会第二十回総会(山梨)  
全国女医一五、二六八名に対し、女医  
の実態調査アンケートを発送。  
●昭和51年

日本女医会臨時総会(東京)  
日本女医会第二十一回総会(東京)  
役員の改選あり、会長三神美和就  
任。

国際女医会議を成功させる会設立。  
日本女医会第十九回総会(金沢)  
国際女医会議(ブラジル)日本より  
九十名出席。

●昭和52年

日本女医会臨時総会(東京)  
日本女医会第二十二回総会(京都)  
国際女医会第十五回国際会議報告書  
刊行。

●昭和53年

日本女医会第二十三回総会(東京)  
第一回講演研修会(埼玉)  
国際女医会議記念事業基金運営委員  
会設立

●昭和54年

日本女医会臨時総会(東京)  
日本女医会第二十四回総会(東京)  
役員の改選あり、三神美和就任。  
第二回講演研修会(東京)

●昭和55年

日本女医会訪中旅行団結成。日中友  
好の任を果たす。团长三神美和他  
十一名。  
国際児童年に際し日本ユニセフ協会  
に百万円寄付。  
インドシナ難民を助ける会に参加募  
金の協力をする。

●昭和56年

日中医学協会に入会。  
日中友好婦人代表団訪中。团长山崎  
倫子。  
●昭和57年

日本女医会第二十六回総会(愛知)  
第四回講演研修会  
日本女医会臨時総会(東京)  
日本女医会定款施行規則改正。  
第一回学術研究助成者五名決定。  
日本女医会創立六十五周年記念祝典  
を挙行。永年会員および十年連続

●昭和58年

日本女医会第二十八回総会(岡山)  
第三回学術研究助成者五名決まる。  
日本女医会年金給付額増額なる。  
第五回講演研修会東京で開催。

●昭和59年

日本女医会第二十九回総会(神奈川)  
国際女医会議(カナダ)日本より七  
十七名出席。  
第六回講演研修会(大阪)  
第四回学術研究助成者五名決まる。  
昭和六十年開催予定の科学万博に医  
療参加する日本女医会の東京都支  
部連合会に協賛。  
国際女医会名誉会員に佐野アヤ子推  
挙さる。  
公許女医百年を記念して荻野吟子賞  
を設定。  
(詳しくは日本女医史、日本女医会  
六十五周年記念特集号をご覧ください)

理事会議事録

日時 昭和59年6月23日

場所 日本女医会 会議室

出席(敬称略)

三神、小俣、福永、山崎、稲葉、  
久保田、佐藤、佐野、白橋、野沢、  
橋本、平瀬、森川、八木、柳瀬、  
明石、荒木、石川、石原、井上、  
川口、関口、野呂、藤井、藤田、  
三好、森、山本、西山。  
欠席(敬称略)  
丸山、鶴川、川島、鈴木、蓮井、  
町田、マッキンストリ、添田、山  
口。

庶務報告 野沢常任理事

4月21日 理事会を行なう。

4月27日 日本女医会誌第98号発  
送。

5月8日 庶務部会開催。

5月10日 会務報告、荻野吟子賞  
基金の募金依頼、国際女医会  
議旅行パンフレット発送。

5月25日 会計部会開催。

5月26日 第二十九回定時総会、  
評議員会を神奈川県民ホールで  
開催二百六名出席。

6月1日 国連NGO連絡会に山  
崎副会長、柳瀬常任理事出席。

6月8日 学位取得者及び国家試  
験合格者氏名を各大学医学部へ  
調査依頼す。

その他

(1)故西村治子先生のご遺族より香  
典の礼状あり。

書評

三神美和著 「悔いありてこそ」

世田谷支部 柳瀬 路子

三神先生が自叙伝をお書きになつたので書評をと、山手書房社長よりご依頼があった。その任にあらずと、ご辞退申し上げるのが筋であろうが、せつかくのご指名であるので、読後の所感を申し述べさせていただきます。

龍先生のご依頼で日本女医学会の理事となつて先生に接し、はや十五年になった。先生は押しも押されぬ日本女医の顔であり、女武見太郎であるが、世にいう剛直武見ではない、まったく学者肌の内省的なお人柄にお見受けした。理事会で遠くから近くから拝察し、また副会長として側近にお伴して感じた事は、一言にして冷徹な人、こんなに女性らしい甘えを切り捨て去つた理性の人がまたあるだろうかという事で、非公式の場ではお惣菜の話もされる先生だが、会に在つては冷徹微動だにもされず、意志を通されるお人で、どちらが先生の本当の姿であらうかと、実は先生の生い立ち。半生の感慨など折あらば承りたいと思つていた所、図らずも、今日通読させていただいたご本によって私の希求の半分は充たされた。

自叙伝はいかにも先生らしく、われわれ医者の見方からすればスケルトとムスケルがあつて、フェットゲヴェーベやビンデゲヴェーベがない。山梨に生まれた利発な少女が家庭の理解の中で最高の学問を受け、たまたま当時女性の地位改善に挺身しておられた吉岡弥生女史の知遇を得られて女子医大教授の嚆矢となり、吉岡先生の衣鉢を継いで医の道を邁進する。天性の資質は素ながら、時流にも恵まれ、診療に従事する傍ら、学生の訓育に当たり、内科教室を主宰し、押されて病院長となつては天下に名だたる心臓の榊原先生、消化器癌の中山先生を擁する女子医大病院の名声を天下に轟かし、校運を隆盛ならしめた一方、日本女医学会会長としては、先年大阪万博の際、依頼されて七カ所の救急診療所の診療奉仕を半年にわたつて完遂し、ついで国際女医学会を日本に招聘し、大成功を収められ、国際婦人年に際しては、全国の女医にアンケートを求め、総女医数の三分の一という集計を基に、「日本女医の実態調査」を行ない上梓し、国際婦人年に寄与された。な

お若い女医のため学術研究費を設定され、その進学を助けておられる。欧米の女医さんに聞いても職場で女性が対等の競争をしようとすれば、まず二〇〇%の仕事をしなければならぬという。国際婦人年の最終年を控えて、日本でも教育の場・労働の場で婦人平等の論議がしきりに行なわれたが、開業医の世界では義務も権利もまったく平等であると私は常に胸を張つて言明している。しかし、この事実を今日あらしめるためには、明治中期から大正にかけての先覚者たちの闘争。また第二次大戦の統後において保健・衛生・医療面に挺身守り抜いてきたわれわれ女医の黙々たる実績があつたからなのであり、またそれをかくあらしめた日本女医の聡明さと辛抱が、基調にあつたからだと思う。三神先生の自叙伝を拝読していると、そのような事実をまったく内に秘めて、吉岡先生の遺志を守り、ひたすら女医の道を辿つてきたという一線に凝集して、淡々とアウトラインのみを述べておられる語り口に、明治女の芯の強さを拝見する一方、その間に織りなされたであろういく多のエピソード、思い出話など、下世話に申す血と涙の物語もまた、今の先生のお立場なら自由にお書きになつてもお構いなかろうと思ひ、「悔いありてこそ」の「悔い」の部分の後日譚のご執筆をお待ちして止まない。

均一化された現在と違い、創立の頃の女医学会は至誠会、鶴風会、加多乃会の三同窓会の有志が集つて結成したようなもので、それぞれのスタイルカラーも明確に違い、初めて理事會に出た時は場違いの感に大いに驚いた事を覚えてゐる。われわれ鶴風会の創立者は母君の遺徳を偲び、当時おかれていた科学的な婦人教育を普及したいとの考えから、女子の医薬理総合専門学校を創立されたという事で、校長は「人間の存在は宇宙の一存在に過ぎない」という科学的的人生観をもつてわれわれを訓育された。

- 茨の道を切りひらいて建学された至誠会の雰囲気とはまったく違つたのである。女医学会に入り女医の歴史を知り、大先達吉岡弥生女史のご苦労を知るにつけ、われわれはもつと他を知らなければならぬと思つた。その意味で至誠会以外の会員の方に吉岡先生の流れを汲む三神先生の自叙伝を読んでいただきたいと思う。
- \* \* \*
- 『悔いありてこそ』三神美和著  
定価 一、〇〇〇円  
発行所 山手書房  
〒112 東京都文京区後染  
2-2-10  
TEL 03 (815) 7486
- 一、講演研修会について  
とき 昭和59年10月27日  
ところ 名鉄岡崎ホテル  
常任理事会 午後一時〜二時  
講演 午後四時半〜五時半  
懇親会 午後五時半〜六時半  
岡崎国立共同研究機構 生理学  
研究所見学 午後二時〜四時  
講演料十五万円、研究所見学謝  
礼五万円、懇親会費五千円とす  
る。
- 二、昭和60年総会について  
とき 昭和60年5月26日  
ところ 京王プラザホテル(新宿)  
詳細については後日検討する。  
三、荻野吟子女医百年の記念行事に  
ついて  
・荻野吟子賞基金の募金高は、現  
在六十五万六千円である。  
・記念行事式典日・昭和59年11月
- 連絡事項  
(1) 昭和59年度女性学講座について。  
(2) 昭和59年度婦人教育国際交流事業「国際セミナー」の傍聴者について。  
(3) 全国各地域婦人団体連絡協議会より役員就任の挨拶あり。
- 二、前会長 山崎倫子  
新会長 伊東すみ子
- 石川理事  
4月、5月分別紙どおり報告  
承認



10日  
場所・京王プラザホテル(新宿)  
講演者・酒井シヅ先生に依頼する。

・荻野吟子賞委員を会長、副会長、事業部で構成し今後記念行事等について検討する。

・荻野吟子賞を毎年継続的に表彰する。

四、東京都支部連合会について

・東京都支部連合会より発足に際し、左記三項についての要望事項が当会に提出される。

1 日本女医学会会議室使用貸借の件

2 日本女医学会事務局備付の機器使用貸借の件

3 日本女医学会事務局職員使用貸借の件

以上検討の結果1、2の使用を無償とする。3については、時間外におよぶときに限り手当を必要とすると返答す。

・来年3月より開催される科学万博に東京都支部連合会医療救護活動に対し、日本女医学会は協賛することとする。

五、その他

(1)国際女医会カナダ会議について  
・ヤングフォーラム——四十歳以下の若い女医の参加を歓迎する。

・参加者より理事五名、評議員二十五名の選出を願う。

・国際女医会本部へ五百ドルの寄付をする(国際交流基金)

・参加者より雑費として五千元納めてもらい土産代および添乗員への謝礼にあてる。

・日本語の同時通訳はない。

(2)財団法人市川房枝記念会の会員および維持員について

維持費 年額一万円協力する。

(3)市川房枝基金制度案内が、市川房枝基金運用委員会よりあり。

(4)全国女子医学生会の会へ五万円寄付する。

(5)日本文化協会光のプレゼント委員会へ一万円寄付する。

(6)世界身体障害芸術家協会へ五千元寄付する。

(7)日本病院ボランティア協会へ九千元寄付する。

(8)前進座12月特別公演について

昭和59年12月1日より27日まで新橋演舞場にて一等席六千八百円のところ特別割引価格五千円。

以上 久保田くら 野沢 良美

常任理事会議事録

日時 昭和59年7月21日

場所 日本女医会 会議室

出席(敬称略)

三神、小俣、山崎、稲葉、久保田、佐藤、白橋、野沢、橋本、平瀬、丸山、森川、八木、柳瀬

欠席(敬称略)

福永、佐野

庶務報告 久保田常任理事

6月23日 荻野吟子命日にあたり雑司ヶ谷墓地へ有志にて墓参献花。

・理事会および広報部会開催。

・日本小児科医会創立祝賀会へ三神会長出席。

6月29日 昭和58年度事業報告および昭和59年度事業計画案を厚生省へ提出する。

7月3日 日中医学協会発起人会準備会へ小俣副会長出席。

7月5日 荻野吟子賞委員会開催

7月11日 日中医学協会発起人会発会に三神会長出席。

7月12日 学位取得者九十六名、新卒者四百六十一名に当会入会のお誘いをする。

7月17日 広報部会開催。

その他

(1)世界身体障害芸術家協会より寄付金の礼状あり。

(2)日中友好協会より新役員就任の挨拶あり。

以上 久保田くら 野沢 良美

会員動静

新評議員(敬称略)

北海道支部 前川静枝

入会会員(敬称略)

荒川支部 小川智子  
渋谷支部 木村慶子  
杉並支部 橋本ふさ

世田谷支部 原田英子  
中野支部 倉富孝子  
神奈川支部 風間蓉子 佐々木道子 村上理枝子 渡部モト子  
愛知支部 日下雅子  
新潟支部 津田晶子 梨本いづみ  
奈良支部 柿内寿美 蘭田史子  
西田和代

福岡支部 斉藤敏子 本田ふぢ  
新卒入会会員(敬称略)  
板橋支部 楠 伊吹 東女医  
兵庫支部 古川美紀子 東女医  
香川支部 大池宏子 東女医  
長崎支部 千住玲子 東女医  
物故者会員(敬称略)  
中野支部 小野沢 純

公許女医誕生百年記念行事予告

日時 昭和59年11月10日(土) 午後一時半より

場所 新宿・京王プラザホテル(五階・コンコルドC)

講演 「荻野吟子について」順天堂大学医史学講師 酒井 シヅ先生

全国日本女医会会員の各地方における、女医の活動についての報告

荻野吟子賞授与

懇親会費(一万元)

ぜひお誘い合わせの上、ご参集くださいますよう、お願い致します。

集記

秋冷の候、先生方にはご健勝にて活躍のことと存じます。

大正二年六月、日本女医会雑誌創刊の発刊以来、先輩の諸先生方の業績と多岐にわたるご活躍に敬意を表し、「日本女医会誌」復刊第百号をお届けいたします。

本年は、くしくも荻野吟子女史公許女医一号誕生百年に当たります。これを称え、十一月には記念事業が開催されます。

カナダでの国際女医会議は、日本からは七十七名参加、国際会議にふさわしい会議の進行、学術発表が行なわれ、また楽しい懇親会や旅行が

行なわれました。

東京都支部連合会が設立、事業計画も進み活発に活動しはじめました。百号を記念し、皆様に喜ばれるよりよい日本女医会誌にいたしたいと努力しておりますので、今後とも、諸先生方のご協力のほどを、お願い申し上げます。

(森)

昭和59年10月20日 印刷  
昭和59年10月25日 発行  
編集人 八木 貞子  
発行人 日本女医会  
発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-8 7 青山宮野ビル  
社団法人 日本女医会  
TEL(498)〇五七一  
制作 東京都文京区水道1-5-16  
株式会社 金剛出版